

**製品名: カベオリン-1 (リン酸化 Tyr14) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04389**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	20kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CAV1
別名	CAV1; CAV; Caveolin-1
遺伝子 ID	857.0
SwissProt ID	Q03135
免疫原	抗血清は、ヒトカベオリン-1 の Tyr14 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 5-54

**背景**

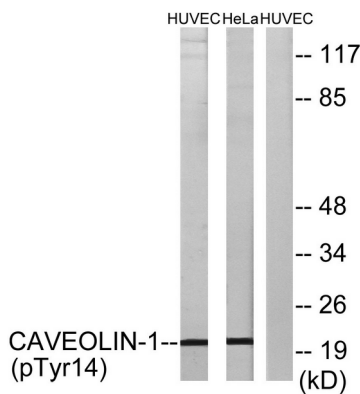
この遺伝子によってコードされる足場タンパク質は、ほとんどの細胞種に見られるカベオラ細胞膜の主成分です。このタンパク質

は、インテグリンサブユニットをチロシンキナーゼ FYN に連結し、インテグリンを Ras-ERK 経路に結合させ、細胞周期の進行を促進する最初のステップとなります。この遺伝子は腫瘍抑制遺伝子候補であり、Ras-p42/44 マイトジェン活性化キナーゼカスケードの負の調節因子です。カベオリン 1 とカベオリン 2 は 7 番染色体上に隣接して位置し、共局在するタンパク質を発現して安定したヘテロオリゴマー複合体を形成します。この遺伝子の変異は、ベラルディネリ・セイプ先天性リポジストロフィーと関連付けられています。選択的スプライシングを受けた転写産物は、カベオリン 1 の  $\alpha$  および  $\beta$  アイソフォームをコードする。[RefSeq 提供、2010 年 3 月]、疾患: CAV1 の欠陥は、先天性全身性リポジストロフィー 3 型 (CGL3) [MIM:612526] の原因である。ベラルディネリ・セイプ先天性リポジストロフィー 3 型 (BSCL3) とも呼ばれる。先天性全身性リポジストロフィーは、脂肪組織のほぼ欠如、極度のインスリン抵抗性、高トリグリセリド血症、脂肪肝、および早期糖尿病発症を特徴とする常染色体劣性疾患である。機能: カベオラ膜内で足場タンパク質として機能する可能性がある。G タンパク質  $\alpha$  サブユニットと直接相互作用し、その活性を機能的に制御することができる。オンライン情報: カベオリンエントリ, PTM: アイソフォーム  $\beta$  の開始メチオニン、翻訳中または翻訳直後に除去される。新たな N 末端アミノ酸は N アセチル化される。類似性: カベオリンファミリーに属する。細胞内局在: 膜上でヘアピン様構造を形成する可能性がある。カベオラの膜タンパク質。サブユニット: ホモオリゴマー。GLIPR2、NOSTRIN、SNAP25、シンタキシンと相互作用する。ロタウイルス A の NSP4 と相互作用する。組織特異性: 筋肉と肺に発現するが、肝臓、脳、腎臓では発現が弱い。

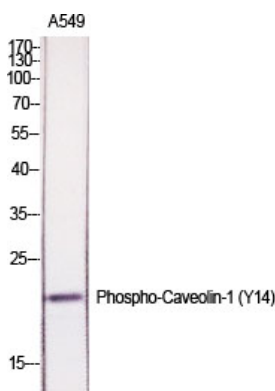
## 研究分野

接着斑;ウイルス性心筋炎;

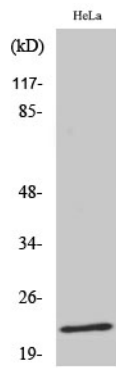
## 画像データ



PMA 125 ng/ml 30 分処理した HUVEC 細胞および LPS 100 ng/ml 30 分処理した HeLa 細胞のライセートを、Caveolin-1 (リン酸化 Tyr14) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化カベオリン-1 (Y14) ポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈して各種細胞をウェスタンブロット解析した。



ホスホカベオリン-1 (Y14) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HeLa 細胞のウエスタンブロット解析